



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL: 03-6302-1919 FAX: 03-6302-1920
E-mail: general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone: 81-3-6302-1919 Fax: 81-3-6302-1920
E-mail: general@ncc-j.org http://ncc-j.org

総会議長
渡部信
総幹事
金性済

Rev. Makoto WATABE
Moderator
Rev. Dr. Sungjae KIM
General Secretary

二・八独立宣言、三・一独立運動 100 周年記念に関する NCC 声明文

今年、2019 年は、大日本帝国の植民地支配下に置かれていた朝鮮において三・一独立運動が起こってから 100 周年の年となります。

20 世紀に入り間もなく、大日本帝国は本格的に大陸侵出を果たすうえで、朝鮮半島が地政学的にその橋頭保的な位置にあることから、ついに 1910 年、強制併合を強いることになりました。朝鮮総督府によって繰り広げられた植民地統治は過酷を極め、「武断統治」と歴史的に評価されています。これに対して、1919 年 3 月 1 日に、33 名の宗教者代表（内、16 名がキリスト者）がソウル（当時、「漢城」と呼ばれる）の明月館に集合し、独立宣言文を発表し、その後警察に自首するにいたりました。しかし、そこで発表された独立宣言文は、当時、李朝鮮王朝最後の王、高宗の国葬のために多くの人々がソウルに上京している中、パゴダ公園に群がる群衆の前で、独立宣言文が朗読されることとなりました。そして、群衆から一斉に歓喜の声があげられ、帽子が空に舞うようになり、そこから四方八方へと「独立万歳」を叫ぶデモ行進が始まり、その後、それは燎原の火のごとく全国へと波及していくことになりました。

わたしたちは、今年 100 周年を迎える「二・八独立宣言、三・一独立運動 100 周年」を、日本のキリスト者として、以下の諸点から、今もわたしたちに問いかけられる歴史責任であり、和解と平和の課題と受け止めます。

第一に、大日本帝国による朝鮮の植民地統治下において起こったこの独立運動は、「独立万歳」を叫ぶ非暴力行動であったにもかかわらず、朝鮮総督府をはじめ日本のメディアは、「暴動」としてとらえました。そして、植民地主義的思考に立つ当局者とメディアの「暴動」という評価は、恐怖と差別、そして憎悪の心理を日本国民の中に植え付け、日本人の朝鮮民族に対する差別的偏見を増幅していくことになりました。その結果、1923 年 9 月に起こった関東大震災後、海軍船橋送信所から発信された「朝鮮人が暴動を起こしている」というデマゴギーは、瞬く間に流言飛語として拡大し、その結果、およそ 7000 人にも及ぶ朝鮮人虐殺の大惨事を引き起こすことになったのです。その時の内務省内務大臣であった水野錬太郎が 1919 年 8 月に朝鮮総督府政務総監として赴任し、三・一独立運動の鎮圧に携わる経験を持つ人物であったことは、船橋送信所からのデマ発信問題と無関係とは考えられません。朝鮮の三・一独立運動と関東大震災朝鮮人虐殺の歴史を、わたしたちは、密接に関連する問題として受け止め、日本はその歴史的责任を自覚しなければなりません。

第二に、1919 年 2 月、第一次世界大戦の戦後処理としてパリ講和会義が開催されたときに、牧野伸顕をはじめとする全権団が、設立構想されていた国際連盟の連盟規約（第 21 条「宗教に関する規定」）に、人種差別撤廃条項を入れることを提案しました。この提案は結局受け入れられませんでした。その背景には、当時、米国において日本人(移民)排斥運動が生じていたことを憂慮する日本政府の判断がありました。日本政府は、米国に移住した日本人移民に対する人種差別には人道的な判断をなしておきながら、同時に、大日本帝国の過酷な植民地統治に苦しむ、「帝国臣民」とさ



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

総会議長
渡部信
総幹事
金性済

Rev. Makoto WATABE
Moderator
Rev. Dr. Sungjae KIM
General Secretary

れた朝鮮民族に対しては同じ基準で対応せず、搾取と抑圧の支配という真逆の道を推し進めていたといえます。ここに、大日本帝国と植民地支配の本質があります。大日本帝国による植民地支配が、民族差別の価値観の中に日本国民を閉じ込める体制として機能したことを、わたしたちは見抜かなければなりません。

第三に、1919年3月1日に発表された「三・一独立宣言」によって、三・一独立運動が起こる背景には、それに先立つ2月8日に、東京神田に所在した朝鮮基督教会館にて救国集会を開催した数百人の朝鮮人留学生たちが、官憲の監視する中、決死の覚悟で「二・八独立宣言」を発表する行動の決起がありました。そして、その時に一斉検挙を免れた学生が自分の学生服に縫い込んだ宣言文をもって朝鮮に渡り、かつて指導を受けた牧師に2・8決起行動について伝えました。3月1日の33名の宗教者代表による独立宣言文発表と、それに続く三・一独立万歳運動の契機は、この二・八独立宣言文発表決起集会にあったと言っても過言ではありません。この2・8決起行動を計画した朝鮮人留学生たちは、キリスト者であり、「大正デモクラシー」運動の中で民本主義を唱えた吉野作造を、物心両面における支援者として深い信頼をもって密接につながっていたことが『吉野作造日記』(2月9日、3月19日)などからうかがい知ることができます。国家神道体制のもとで言論の自由が著しく制約・統制されていた時代状況の中で、キリスト教信仰に立つ良心の知識人であった吉野作造は、三・一独立運動に対する日本での論調を嘆き、論文の中で、「国民の対外的良心の著しく麻痺している事」(『中央公論』1919年4月号)と論評しています。わたしたちは、天皇制国家神道体制のファシズムの中で、キリスト教信仰に立ちつつ自由と民主主義を追求した吉野作造らが、大日本帝国の支配と抑圧構造に抵抗し乗り越えていく道として、二・八独立宣言や三・一独立運動に限りない共感と希望を抱いていたことの歴史から深く学びます。そして、日本の現代史、殊に今日の日本の政治が置かれた極右的な政治動向の時代状況の中で、わたしたちキリスト者はこの二・八独立宣言と三・一独立運動との日本の関わりの歴史を大切な教訓として、現代の課題と向き合わなければなりません。

今年、2019年、わたしたちの目前には、天皇の代替わりに伴う大嘗祭などの儀式が予定され、改めて日本国憲法が謳う政教分離原則抵触の問題が突き付けられています。さらに、安倍政権は、憲法第9条をはじめとする平和憲法の改定を、今後さらに強力で推し進めることが予測されます。

わたしたち日本のキリスト者は、明治期以降の大日本帝国の歴史が第二次世界大戦の敗戦に至るまで、この東アジアにおいてどのような意味を持っていたのかを、福音に堅く立ち顧みます。そして、大日本帝国による侵略戦争と植民地支配の責任についての信仰告白に改めて立ち帰り、南北の平和統一のために奮闘する朝鮮半島のキリスト者と共に、南北朝鮮と日本の真実の和解と共生の平和をめざし、また日本の平和憲法に基づく民主主義を守り、排外主義的なナショナリズムに抗い、共生の平和を求める宣教の使命を担う道を、平和の主に導かれるように切に祈らずにはおれません。

朝鮮半島における、統一に向けた和解と平和のプロセスを導かれる主イエス・キリストが日本のキリスト者に熱く求められる使命に、今わたしたちは思いを馳せます。わたしたちは、今十字架と復活の主にゆるされ、新たにされ、そしてひとつとされながら、ここに以下のことを決意します。



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

総会議長
渡部信
総幹事
金性済

Rev. Makoto WATABE
Moderator
Rev. Dr. Sungjae KIM
General Secretary

- 一. わたしたちは、戦争責任の罪責告白の信仰に立ち帰りつつ、国家神道による大日本帝国の植民地支配(台湾、朝鮮)と旧日本軍「慰安婦」問題、また徴用工問題をとらえながら、韓国 NCC と共に日韓の和解と平和に努めます
- 一. わたしたちは、第 2 次大戦後わたしたちに委ねられた平和憲法の前文と第 9 条に刻まれた恒久平和と戦争永久放棄の精神を守りつつ、また天皇制国家主義の復活を許さぬよう、日本国憲法が規定する政教分離原則を守る闘いを続けます
- 一. わたしたちは、沖縄の人々の反戦平和を求める闘いに連帯し、またヘイトスピーチをはじめとするあらゆる人種・民族差別に否を唱え、在日外国人との共生社会をめざします
- 一. わたしたちは、北東アジアの和解と共生の平和を求めて、平和統一をめざす朝鮮半島の和解と平和の道に連帯し、そして福島原発事故後の放射能被爆被害と避難生活に苦しむ人々に寄り添い、日本を含む北東アジア全体の脱原発・非核兵器地帯の確立をめざす宣教の使命を担います

2019 年 1 月 18 日(金)

日本キリスト教協議会

総幹事 金性済

女性委員会委員長 北村恵子

都市農村宣教委員会委員長 原田光雄

靖国神社問題委員会委員長 星出卓也

部落差別問題委員会委員長 小泉 嗣

平和・核問題委員会委員長 内藤新吾

在日外国人の人権委員会委員長 李 明生

「障害者」と教会問題委員会委員長 橋本克也

信仰と職制委員会委員長 西原廉太

東アジアの和解と平和委員会委員長 飯塚拓也

NCC 教育部総主事 比企敦子